

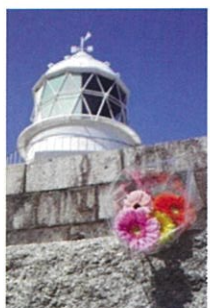
六連島には、素朴さがある。島民の人情がある。



山口県下関市の沖合に浮かぶ人口約87名の小さな離島・六連島(むつれじま)。そこには、温かい島民たちの素朴な人情があり、明治新政府お雇い外国人第1号リチャード・ヘンリー・ブラントン設計の重要文化財・六連島灯台などがあります。その灯台の傍に約70年前に島民の金山貞子さんらによって植えられた2本の桜の木。

この度、その美しい桜と六連島灯台を背景に生かした野外コンサートを開催いたします。六連島を応援する、未来へ繋ぐための企画です。島の穏やかな時の流れの中での「灯台と桜のコンサート」。この機会に、楽しい船旅20分で到着する六連島へ、お友達もお誘いして是非お越しください。皆様のお越しを六連島でお待ちしています。

参考写真：第1回 六連島「灯台と桜のコンサート」(2022.4.3) 出演ご協力：関門海峡合唱団



Kanmon Entertainment/関門エンターテイメント活動趣旨

私たちが生まれ育った関門海峡は、命の海です。関門エンターテイメントは、関門地域の歴史文化や地域資源の魅力を活かし、「平和」「絆」「慰霊と祈り」「自然との共生」「感謝」「思いやり」のメッセージを、音楽・歌・郷土劇などを中心とした無形の当地エンターテイメントを通じ、平和メッセージや先人の慰霊、歴史発信およびその価値を高め、郷土愛を育み、感動の心で繋がる人と人との絆を深め、地域の未来に繋ぐための活動です。郷土史家や地域住民とも連携しながら地域の課題解決にも取り組み、参加する全ての人々が、生命への深い感謝と優しさに触れることが出来るような活動を目指しています。将来的には、関門海峡の歴史を世界に発信できる芸術文化的基盤を新しく構築するためのエンターテイメント活動です。 <https://yuumuta.jimdo.com/kanmon-entertainment/>

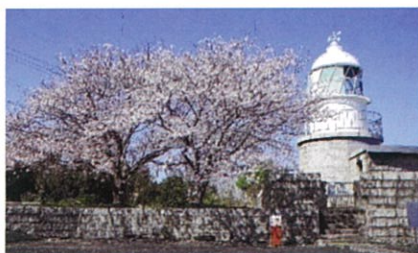
関門海峡は、古来より陸上・海上交通の要衝であり、日本の歴史上重要な転換点の舞台となってきました。平安時代末の源平の戦いや、武蔵・小次郎の巖流島の決闘などは特に有名な物語として今に伝わっています。幕末の下関戦争を契機とした下関・門司両港の開港から経済的な発展、関門鉄道トンネルの開通、そして現在の街並みが作られる約100年間のストーリーが「関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～」として文化庁から日本遺産の認定を受けています。この日本遺産を活用する関門海峡日本遺産協議会は、関門海峡の歴史とこの素晴らしいロケーションを活かした地域の魅力を積極的に発信しています。

〈関門“ノスタルジック”海峡～時の停車場、近代化の記憶～〉

関門海峡には、外国船がもたらした舶来文化が根付き、狭い海峡を外国船が行き交う景観の中に、日本が近代国家建設へ向け躍動した時代のレトロな建物群が現在も大切に残されています。「海峡七路」を使って兩岸を巡れば、まるで映画のワンシーンに紛れ込んだような、ノスタルジックな街並みに出会うことができます。

六連島灯台

部埼灯台



日本遺産 関門“ノスタルジック”海峡

詳細はこちらから！

